

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200890		
法人名	特定非営利活動法人スリーアール静岡		
事業所名	グループホームいなほ		
所在地	静岡市駿河区高松1丁目12番10号		
自己評価作成日	平成29年7月19日	評価結果市町村受理日	平成29年10月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JivovsvoCd=2294200890-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JivovsvoCd=2294200890-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成29年8月18日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々の生活スタイルを大切にしながら、ご自分のペースで生活できるよう支援し、1人1人にあった個別ケアを実践しています。  
日常生活の中で、やりがいや役割を見つけ、メリハリのある生活となるよう心掛けております。  
残存機能の維持、低下を防ぐ為にもご利用者の力を信じ、「誰もが当たり前」の生活が送れるよう具体的な支援を実践し、又ご家族様の気持ちに寄り添い良い関係づくりに取り組んでおります。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

特定非営利活動法人として「誰もが人間らしく豊かに生活できるまちづくりの推進」の理念を掲げ、障害者(児)、介護を必要とする高齢者等がなじみの場所での生活と支えあい、1日でも長くこの家で過ごしたい！を目指して、建屋内ではグループホーム・デイサービス・居宅介護支援等の介護保険関連や障害者(児)の自立を目指した就労支援や放課後デイサービス等の事業を行なっている。ホームは事業内容に関わる運営指針を定め、利用者一人ひとりに寄り添い、それぞれのペースに合わせた個別ケアにつなげている。管理者と職員、職員同士の意思の疎通も円滑で、利用者は安心して過ごしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を掲示しており、面接や会議の場において、理念の確認を行い、実践につながるよう心掛けている。	法人理念遂行にあたり、ホームとしての運営指針を定めている。利用者の混乱や不安感を理解し安心と自尊心を取り戻した安定した生活が出来るケア、一人ひとりの自立心の支援、家族や地域との良好な関係作りを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	定期的開催している運営推進会議やボランティア、地域学生の受入れを行い、又毎月「地域行事」にも参加している。	地域の福祉関係機関とは良好な関係が維持されている。小中高校の福祉体験を受入れ、個人ボランティアの出入りも多い。町内会や民生委員の声掛けで地域高齢者の居場所作りも盛んで、そのカフェにも招かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受入れや、地域行事に参加し交流を深め、運営推進会議においても、認知症ケアについての議題も盛り込んでいる。地域の皆様を招待する「いなほ祭り」も検討している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期開催し、民生委員、地域包括支援センター、町内会長、利用者ご家族様に参加していただき、皆様からの意見、要望をサービスに反映している。	運営推進会議は地域の各委員出席のもと、隔月で定期的開催されており、議事内容も適切である。最近では、地域包括支援センター委員から認知症介護の現況など有意義な説明に委員の関心が寄せられた。天災に関する話題も多い。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の実情を積極的に伝え、運営などについて不明な点など、その都度確認したり、助言をいただき、市からの調査依頼などにも対応している。またシニアサポーター事業所登録も行っている。	法人建屋内では介護保険適用諸事業所や障害者の就労支援事業、放課後等デイサービス事業所等多部門の事業が展開されているので市区諸担当者との関係も深く、問合せ事項の報告などのやり取りは円滑である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修にも参加し、ホーム内には「身体拘束ゼロ宣言」ポスターを掲げている。会議の場においても全職員で情報共有を行っている。	「身体拘束ゼロ宣言」を掲げ職員は身体拘束はないとの信念を持ち仕事に従事している。外部研修には職員が交代で出席し、必ず会議で報告し共有している。利用者との信頼関係構築をより高め、声掛けにも気配りしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で情報共有を密にし、現在行っているケアや対応方法について話し合う機会を設ける事で、虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加するよう事業所から職員に促している。ホーム内に参考書を置いたり、会議の場においても学べる環境を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度おこなっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加の呼びかけや、ご家族様来訪時、積極的なコミュニケーションを図り、意見要望においても全職員で情報共有を行っている。	運営推進会議に参加できない家族には、来訪時に議事録を手渡し事業所の運営状況を説明するなどコミュニケーションを図るよう努めている。家族意見は職員全員で共有に努め、細かな要望にも個々に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の場において、意見が出やすい環境雰囲気作りをしている。又個別での話し合いの場を随時設けている。	ホーム長と職員、職員同士が非常に良い関係で推移している。ケアカンファレンスに関する意見のやり取りが多いが、計画作成者や担当者を交えた積極的な意見交換が笑顔の中で展開されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	役職手当、資格手当の基準を明確にし、正規職員への登用も勧めている。職員の生活環境を考慮し、勤務調整を行い、誰もが働きやすい職場作りを心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外での勉強会、研修などに参加できるよう、情報提供し勤務調整を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区内のグループホーム会になるべく参加し、意見交換などを行っている。又協力病院主催の懇親会への参加もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にインテークを行い、職員と支援方法についてカンファレンスを行う。入居当初は様々な環境変化から混乱してしまわぬ様、生活環境に注意し落ち着いた環境作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との信頼関係の下、ご本人に対してより良いサービスが継続していけるので、面会時など少しの時間でも話し合いの場を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	全職員で話し合い対応している。利用者個々に担当者を設け、外部との関係にも取り組んでもらっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活空間を共有する為、一緒に食事をしたり、買い物に出かけたりしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族からもご本人についての情報だけでなく、家族としての想いを聞くことで絆が途切れないような支援を心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に来訪できるよう家族や親族への呼びかけを行い、また馴染みの場所への外出支援なども行っています。	今までの馴染みの場所へドライブしたり、自宅で日中の何時間かを過ごしたりするような外出支援を実施している。家族や親戚・知人等にホーム訪問を呼びかけたり、アセスメントで知り得た情報を共有している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれが気持ちよく過ごせるよう、利用者様の座席の配置や、共通の話題作りなど工夫しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各利用者に担当者を設け、ご本人をより深く知り得た情報をカンファレンスにおいて、全職員情報共有し、利用者本位のサービスとなるよう心掛けている。	入居時点からセンター方式によるアセスメントの取得、状況の変化に伴う家族の意向を大切にしたい情報を共有している。担当者を中心にしたモニタリングの取り纏め等により、利用者本位のサービスに結果が出ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各個人記録を全職員が把握し、本人からの聞き取りなどにおいて知り得た情報もカンファレンス時に情報共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日のバイタル・食事・水分その他身体の異変等を記録し、全職員が閲覧する事で、現状の把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成するにあたって職員はもちろんご家族様や主治医にも相談しております。センター方式を使用し、より専門的な介護計画を作成しております。	利用者一人ひとりに担当者が就いており、職員が日々記録した情報はモニタリング結果として纏められ、計画作成者と共にカンファレンスで活用している。家族の意見や主治医のアドバイスも大切に、介護計画書に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や関係書類などを利用し、カンファレンス時に職員間で情報共有しています。必要に応じて、随時介護計画書を作成しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今必要な支援などについては、ご家族様と話しをしながら柔軟に対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での行事等にもなるべく参加し、要望に応じて買い物などにも出掛けている。また近隣の保育園にもお願いし園児との交流も図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居しても馴染みのあるかかりつけ医での診察を継続し、ご本人やご家族と相談しながら定期受診を支援している。	利用者全員が入居前からのかかりつけ医を主治医としているので定期的な受診は家族に協力を願っているが、ホームで支援する機会が多い。緊急の場合は、総合病院である協力医に診てもらおう体制が出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康状態を訪問看護師に随時相談している。また24時間電話や場合によっては訪問対応していただき、ターミナルケアも行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合には定期的に病院を訪問しており、医療連携室の方とも十分な話し合いをしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	定期的にご家族様に意向を確認している。関係者全員が共通認識をもちケア体制を整えています。各同意書についても随時確認しており、より良いサービスが提供できるよう心掛けている。	重度化した場合や終末期に於けるホームの方針は入居時に説明し確認を取っている。その機には、家族への説明と意向の確認を再度行い、同意書を作成し、医療関係者やホーム、家族の共通認識のもと看取りまで行っている。訪問看護師、医師との連携も良い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンスにおいて、急変時の対応について確認したり、外部研修などにも積極的に参加しています。また消防署員による指導もいただいています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練は年二回行い、建屋内他事業所との合同訓練も行い、被災時には連携した避難ができるよう努めています。また備蓄品では身体的特性に応じた食料品の選定をしています。	火災を想定した法定訓練、建屋内の諸事業部門との防災訓練は計画的に行い、各職員は訓練結果や備蓄品を評価合っている。建屋内職員の中に地域防災組織の委員がおり、地域貢献を含めた連携についても話し合っている。	地域防災組織との連携は、誤解が生じないように、双方で期待する内容を確認し、ホームとしても地域貢献に寄与できるよう、詳細に話し合うことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	周囲の状況を把握し、その場その利用者に適した声掛けをしている。又カンファレンス時においても対応方法についても話し合っている。	職員は、一人ひとりの尊重とプライバシーの確保の重要性に関して熟知し、各事例についてもカンファレンスで確認し合っている。一人ひとりに寄り添い、その時の気持ちを良く理解し、個々に丁寧な対応ができるよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望や思いを知る為に、利用者様の声を傾聴し、何を望んでいるのかご家族様や職員間で話し合う場を設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースや意思をしっかりと把握し対応するよう心掛けている。決して無理強いほしくないよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族様が持参された本人の衣類の中から職員が季節に適した服をピックアップしている。又希望に応じて随時対応しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の状態に応じて、調理から片付けまで出来る事は手伝っていただき、職員も利用者と一緒に食事しています。	利用者と職員は、幾つかのテーブルを囲み同じメニューと一緒に食事をしている。利用者の食事介助をしながら、別の利用者も見守りながら食する職員もいるが、話題が絶えず楽しんでいる微笑ましい光景がみられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人の力を活かしながら食事できるよう、量や形態を工夫するよう日々観察し、柔軟に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の状態に応じた口腔ケアを行っています。また、必要に応じて訪問歯科の利用も勧めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンや身体機能等を全職員でアセスメントする事で、少しでも排泄の自立につながるよう支援しています。また多くの利用者がトイレでの排泄ができるよう、移乗技術についても勉強しています。	当たり前の生活をするための基本となる事柄の中に「トイレで排泄ができる事」があると考え「排泄の自立」をスローガンに掲げ支援している。個々の細かなアセスメント結果を理解し共有しながら支援する事で良い結果が出ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や排泄パターンを把握し、飲食物の工夫もしております。また主治医と相談しながら下剤の調整を行い、トイレでの排泄を心掛けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調やその日の状態に応じて柔軟に対応しております。決して無理強いする事のないよう声掛けにも工夫して取り組んでおります。	週2～3回を基本に各利用者の体調に留意しながら、適切な声掛けを行い支援している。入浴を拒否する利用者はいない。急な事柄で部分浴や清拭の必要が生じて、随時対応できる体制ができている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の生活リズム、その日の体調等把握し、休息できるよう声掛けを行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日の薬のセット確認は全職員が携わっている。また薬について深く知るよう薬剤師による勉強会も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活やご本人が得意な分野での役割を持つことで、メリハリのある生活となるよう支援しています。又、毎月行事を決め楽しみにされている利用者様もいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に応じ外出計画をたてたり、買い物やご近所での散歩にも出掛けています。月に1度開催する地域での「公園カフェ」にも参加しています。	利用者の超高齢化に伴い、外出支援もADLに応じた個別支援の傾向にあるが、ホームでは多くの利用者が外出できるよう支援している。「公園カフェ」には毎回2名が参加し、ホームの買物に同行する利用者もいる。家族が来訪し外食に出掛ける利用者の支援も行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はホーム側が行っていますが、要望、必要に応じてご本人にお持ちいただいたり、お預かりしている「お小遣い」はいつでも使えるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じて支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に室温や湿度、物音等に気を遣い、清潔を保つよう毎日清掃しています。ホーム内でも季節を感じて頂ける様季節ごとの飾り付けを行っています。	清潔感ある共用空間は、高い吹き抜けのからの日差しがライトと融和してやわらかい明るさとなっている。リビングの壁に貼られた簾には、祭りや海を描いた扇子や朝顔・向日葵の造花、風鈴等が掲示され夏の涼を演出している。利用者は落ち着いて過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室へは自由に出入りしていただいたり、共用空間の場では、気の合う利用者同士が話せる様、座席等の配置を工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が慣れ親しんだ物、使い慣れた物など、ご自由にお持ち頂いています。	居室は家庭生活の延長でもあるので、利用者は思いある品々を持ち込んでいる。担当者は利用者に寄り添い、話し合いながら配置や環境整備などを支援し、安全で落ち着いた生活が続けられるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	物事や場所などを理解しやすいよう、わかり易いマークなどを付け、また各設備の高さにも配慮しております。		